

第7章 地球温暖化対策

1. 地球温暖化問題をめぐる動き

地球温暖化問題は、産業革命以降、人間活動に伴って急激に増えた化石燃料使用の結果、大気中に大量に排出された二酸化炭素等の温室効果ガスが大気中の温室効果ガスの増加を引き起こし、自然の生態系及び人類に深刻な影響を及ぼすものであると言われている。

我が国においては、京都議定書の採択を受け、2008年から2012年の間に二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスを1990年レベルから6%削減することを目標と定められた。また、平成11年（1999年）年4月に施行された「地球温暖化対策の推進に関する法律」の第21条において、地方公共団体はすべての事務・事業から排出される温室効果ガスの削減に取り組むよう、その措置に関する計画の策定が義務付けられ、本市においても平成20年3月に「橿原市地球温暖化対策推進実行計画」が策定された。平成25年3月で計画期間が終了したため、平成25年3月に平成29年度を目標年度として、新たに平成25年度から平成29年度の5年間を計画期間とした「橿原市地球温暖化対策推進実行計画（第2次）」を策定した。

2. 市の事務事業活動に伴う温室効果ガスの現況

平成24年度における本市の事務・事業活動に伴う温室効果ガスの排出量は26,788t－CO₂であった。うち、事務系（非事業系）に伴う排出量は6,105t－CO₂、事業系（廃棄物処理事業、上水道事業、火葬業務）に伴う排出量は20,683t－CO₂であった。

表7－1 事務・事業活動に伴う温室効果ガスの排出量（t－CO₂）

	平成18年度 (基準年度)	平成20年度 (計画初年度)	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度 (目標年度)
事務系	6,337	6,181	6,203	6,461	6,105	5,688
事業系	23,036	21,957	21,543	20,513	20,683	20,550
合 計	29,373	28,138	27,746	26,974	26,788	26,238

3. 橿原市地球温暖化対策推進実行計画

(1) 計画の期間・基準年度・目標年度・対象

基準年度を平成 18 年度とし、計画期間は平成 20 年度から平成 24 年度の 5 年間、目標年度を平成 24 年度とした。

対象は、本市すべての事務（非事業系）・事業活動（廃棄物処理事業、上水道事業、火葬業務）である。

(2) 温室効果ガスの対象範囲

対象範囲は二酸化炭素（CO₂）、メタン（CH₄）、一酸化二窒素（N₂O）、ハイドロフルオロカーボン（HFC）で、本市事業においては絶縁機器からの漏洩であるパーフルオロカーボン（PFC）や六フッ化硫黄（SF₆）は確実に回収し適切に処理されることから対象から除外されている。

(3) 削減目標

事務系においては、平成 18 年度を基準に、平成 20 年度から平成 24 年度の 5 年間で 3%以上削減を目標と定められており、目標年度の平成 24 年度において基準年度に比べ、10.2%削減することが出来、目標を達成した。

事業系においては、管理部門を除き市民サービスの低下につながらない範囲で取り組み、努力目標として、平成 18 年度の状況を悪化させないことと定められていたが、平成 24 年度において基準年度と比べ、10.7%削減することが出来た。

4. 節電対策

(1) 夏季の省エネルギー対策

省エネルギーによる地球温暖化防止を目的に、市役所の全職場において「夏のエコスタイル」を実施している。実施期間中は、市の施設では冷房の目安を 28℃に設定し、冷房が過度にならないように温度調節に努めている。また、職場において職員は暑さをしのぎやすい軽装（ノー上着、ノーネクタイ）で勤務している。

(2) 涼感学習ひろば・くつろぎひろば

家庭での空調機器の使用を控え、中高生が快適な環境の中で勉強していただくため、8月にリサイクル館かしはらとクリーンセンターの研修室や会議室を学習ひろばとして開放した。またリサイクル館かしはらでは、施設の特徴を活かし、古雑誌や古本を閲覧するスペースを設置した。

(3) 夏季節電キャンペーン

節電啓発チラシを作成し、6月に大規模小売店舗、7月に近鉄大和八木駅前において節電キャンペーンを実施した。

(4) かしはら節電チャレンジ

8月1日～10月31日の間、家庭での節電の取り組みを推進するため、7月または8月の節電に取り組んでいただいた世帯を対象に、我が家が行った節電アイデアを募集し、参加者に対し花の種を進呈した。またアイデアを頂いた中で、前年同月の電気使用量と比較して削減が大きな世帯に記念品を贈呈した。

(5) 冬季の省エネルギー対策

市の施設では暖房の目安を20℃に設定し、暖房対策として、社会一般の見地からの服装に配慮した「ウォームビズ」を心がけるよう取り組んでいる。

(6) 冬季学習ひろば・くつろぎひろば

電力需要のピーク時における家庭の電力消費の低減を図ることを目的として、環境省が新しく提唱しているウォームシェアを推進するため、リサイクル館かしはらとクリーンセンターの研修室や会議室を12月中旬から1月初旬まで「冬季学習ひろば」として開放した。またリサイクル館かしはらでは、夏季に続き、古雑誌や古本を閲覧するスペースを設置した。

5. 公用自転車

本市では廃棄された自転車を整備し、公用自転車として庁内に配備した。自転車を
使用することで、温室効果ガスの排出を抑制し、地球温暖化の防止に取り組んでいる。
また、自転車の前かごには「自転車でストップ！地球温暖化」の啓発プレートを掲示
することにより、市民への普及啓発を図っている。

6. エコドライブ

本市では、「橿原市地球温暖化対策推進実行計画」に基づき、公用車の適切な利用
と効率的な走行を推進するため、平成 22 年 7 月、エコドライブの研修を開催し、そ
の後、市長立会いのもと、公用車エコドライブ宣言式を実施した。

また、公用車の運転席にはエコドライブ心得ステッカー、車両後部にはエコドライ
ブ宣言ステッカーを貼り、市民へのエコドライブの啓発をはかり、エコドライブ推進
を呼びかけている。

7. グリーンカーテン事業

橿原市役所・本庁舎本館南側につる状の植物（ゴーヤ・ヘチマ・ヒョウタン・アサ
ガオなど）を植え、「グリーンカーテン」の設置を行った。グリーンカーテンで窓を
覆うと、太陽の日差しを遮り、室内の温度上昇を抑えることができ、さらに、植物の
蒸散作用による冷却効果によって冷房の使用抑制にもつながっている。

また市内に住む園児、児童、生徒たちにも環境について関心を持ってもらいたいと、
市内の公立保育所・幼稚園・小学校・中学校にもグリーンカーテンの設置に取り組ん
でもらっている。

8. バイオディーゼル燃料（BDF）事業

市民のみなさまから持ち寄られる使用済み食用油を再資源化し、BDFとしてゴミ
収集車に使用している。BDFは軽油と比べて地球温暖化の原因となる二酸化酸素排
出量が少ない環境に優しい燃料で、平成 21 年 8 月より事業を開始している。

9. 地球温暖化対策市民講座

夏休みに親子を対象に地球温暖化の講義とエコ工作を交えた「夏休み親子で学ぼうソーラーランタンと地球温暖化のお話」を開催した。

10. 橿原市地球温暖化対策地域協議会 “エコライフかしはら”

環境活動を展開している市民団体や事業者、及び行政等の幅広い連帯と協働によって、次世代にわたり、住み良い豊かな橿原市を目指すことを目的として、平成 22 年 10 月に橿原市地球温暖化対策地域協議会を結成した。地域協議会では、橿原市の環境と地球の将来を考え、実践活動を推進している。

(1) エコフェスタ 2012 in まほろば

10 月に地球温暖化や地域の環境保全など環境普及啓発を目的とした環境イベント「エコフェスタ 2012 in まほろば」を県橿原文化会館前広場で実施した。地域協議会の会員及び NPO やボランティア団体、事業者が、日頃の活動内容の紹介展示やエコ体験コーナー、エコ工作、フリーマーケット、環境に関するステージを実施し、多くの来場者の方々に楽しみながら環境を学んでいただいた。

(2) エコライフサロン

6 月の環境月間にあわせて、環境イベント「エコライフサロン」を開催した。

「エコライフサロン」では、エコ工作体験や環境についての願い事を短冊に書いて笹に飾る環境七夕作りなどを実施し、参加者の方々に楽しみながら環境を学んでいただいた。

また、2 月の水質改善強化月間にあわせて、家庭における生活排水対策や環境保全などの普及啓発を目的とした環境イベント「エコライフサロン」を実施した。地域協議会の会員である市民団体などが、水の簡易実験、エコ工作体験、環境カルタなどを行い、ステージでは生活排水対策に関する講座やエコクイズを行い、来場者に楽しみながら環境を学んでいただいた。

(3) エコウォーキング

10 月に一般市民参加のもと、畝傍御陵前駅をスタートし、本薬師寺跡、飛鳥川沿い、香具山、昆虫館の約 5k m の道のりをウォーキングした。途中橿原市の歴史風土を学ぶとともにゴミ拾いをおこなった。

(4) 市民による環境シンポジウム

橿原市の環境像を実現するためには、市民・事業者・行政の 3 者が協働的に取組を推進していくことが重要であり、そのための第一歩を踏み出すべく、「橿原市環境基本条例」と「橿原市環境総合計画」の概要紹介、エコライフと太陽光発電をテーマとした特別講演、環境寸劇、エコライフかしはらの活動紹介を行うシンポジウムを 1 月にかしはら万葉ホールで開催した。